

授業改善推進プラン【 6年 】

令和7年度 小平市立小平第四小学校

	学習状況の実態及び課題	具体的な改善策(いつまでに、どの程度)
国語	・新出漢字の学習に意欲的に取り組んでいるが、活用することが苦手な児童がいる。 ・叙述に沿って全体像を読み取る力が育ってきているが、目的を意識して必要な情報を取り出して読み取る力に課題が見られる。 ・自分の考えを工夫して書いたり、発表したりすることができる児童が多い。 ・読書習慣が定着していない児童がいる。	・定期的に漢字小テストを実施したり、作文を書かせたりする機会を設け、習った漢字を活用する機会を確保する。 ◎国語だけでなく他教科でも、目的を意識しながら文章や資料を読むよう指導する。 ・対話活動を効果的に取り入れ、自分の考えを表現する活動をたくさん確保する。 ・朝読書や課題後の隙間時間を利用して読書する時間を確保する。
社会	・政治の仕組みや歴史的事象、都道府県名と位置などの基礎的な知識の定着に個人差がある。 ・必要な情報を図やグラフなどから読み取る力が身に付いてきている児童が多い。 ・日本の政治や歴史に関心をもち、意欲的に学習に取り組む児童が多い。	・各単元ごとに、知識の定着を確認する時間を設ける。 ◎資料を自分で選択し、必要な情報を読み取ることができるようにし、資料を読み取る力の更なる向上を目指す。 ・毎時間、調べたことから考えをまとめ、伝え合う活動を行い、主体的に学習に取り組めるようにする。
算数	・基礎的・基本的な内容の定着が不十分な児童がいる。 ・図形の性質や計量の学習は概ね力が付いている。 ・筋道を立てて解決していく力、粘り強く考えていくことが十分ではない児童がいる。 ・既習事項を生かして考えたり、生活で生かしていることとする意欲が高い。 ・学習に対して意欲的に取り組むことができる児童が多い。 ・自分の考えを絵や図、式などを使って、ノートに思考過程を整理して書く習慣が付いてきたが、考えを説明する力は弱く、自分の考えに自信がもてない児童がいる。 ・	◎自分の考えを絵図、式などを使って、工夫をしながらノートに思考過程を整理して書く習慣を付けさせる。 ・習熟度に応じて授業の初めに既習事項を復習することで基礎基本の定着を図り、発展的な問題に対峙しても既習事項と照らし合わせながら解決できるように指導する。また、問題解決の結果を多面的に考えられるようにする。 ・自力解決の時間を十分に確保する。ペアなど一人一人が説明する時間をとつたうえで、模範となる児童に発表させ、上手な説明・発表の仕方について共通理解を図り、自分の考えに自信がもてるようにする。 ・少人数で意見交換をする時間を増やし、全体での発言に意欲をもたせるようにする。
理科	・結果から多面的に物事をとらえ、より妥当な考えをもって考察する力が全体的に弱い。 ・実験や観察に、グループで協力して取り組むことができる。 ・実験や観察に取り組む意欲や技能に個人の差が大きい。 ・考えを文章に表し、説明することが苦手である。	◎結果を正しく読み取り、正しく解釈できているかということに加え、他の班の結果や日常生活など多面的に物事をとらえて、考察できるようにポイントを明示する。また、実験・観察中にも多面的に物事を考える意識をもって取り組ませる。 ・自分の考えをノートに書いたり友達に説明したりする時間を確保するなど、自分の考えとして身に付けられるようにする。 ・得た知識をもとに日常生活の現象を科学的な言葉を用いて表現することで、学習した内容の理解を深められるようにしていく。
音楽	・自然で無理のない発声で音程や響きに気を付けて、気持ちよく歌うことができる児童が多い。 ・器楽の学習では技能に個人差があるが、友達と聴き合い、教え合い意欲的に取り組んでいる。 ・協働的かつ個人的な技量の向上を図り、音楽の表現をさらに高めようとしている。 ・曲に合わせて指揮や身体表現を意欲的に取り組んでいる。	◎歌唱を通して音楽の特徴をつかみ、児童一人一人が協力的に組み、楽しく音楽活動に取り組みながら音楽の表現を味わう。 ・感じたことを自分の言葉にして伝えるなど、言語活動を通して、自分の思いを相手に伝える力を養うようにする。 ・学年全体で演奏することが楽しいと思える環境づくりに努める。 ・表現活動では、基礎的な技能を高め、自分たちの思いや意図を表現に生かして合唱したり、合奏したりすることができるよう、題材構成を工夫する。 ・多様な音楽の魅力に気付き、自分たちの表現に生かしたり、友達と伝え合ったりできるようにする。
図工	・自分の感覚や行為を通して、造形的な特徴を理解することができる。 ・技能的な既習事項を活用することができる。 ・表したいことや表し方について、豊かな発想ができる。 ・友達の作品から見方や感じ方を広げることができる。 ・制作活動そのものを楽しみながら、よりよいものを作ろうとしている。	◎作品製作のスケジュールなど主体的に考えられるように支援し、理解しにくい物の構造等については丁寧に説明する。 ・既習事項を繰り返し学習する機会を設定する。 ・友達の作品を鑑賞することで、見方や考え方が広がり、喜びが感じられるような活動を設定する。
家庭	・学習した技能(特に手縫いの玉止め)が不十分な児童がいる。 ・火加減を具材に合わせて調整する力を身に付けさせる必要がある。 ・学習に対して意欲的に取り組むことができる。特に実技を含む単元に対する意欲は高い。	・技能が身に付けられるように、継続的に実技に取り組むことができるようにする。 ・具材の固さやかさに合わせて、様子を見ながら調理できる実習に取り組む。 ◎日常生活から課題を見付けさせ、実践的・体験的な学習を学ぶことができるようにする。
体育	・運動の特性に応じた基本的な技能を身に付け、年間で体力を高める必要がある。 ・心の健康、けがの防止、病気の予防についての理解の面では個人差が見られる。健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる必要がある。 ・各種の運動の楽しさや喜びを味わうことができる児童が多い。技能にかかわらず、挑戦する姿勢も多く見られる。 ・単元によって苦手意識をもちながら授業に参加をする児童がいる一方で、自分で課題を把握し解決しようとする姿勢が見られる児童が多い。	◎学習カードの活用や効果的な発問で、自己の伸びや課題を把握できるようにさせ、自分にあった課題を選ばせる。 ・学習カード、学習者用端末などを用いて、運動の楽しさや喜びに触れ、その技ができるようにする。 ・運動に関する気付きや互いのよかった所や工夫した所を振り返り、自己の力を高め合うことのできる主体的な学習を展開する。 ・運動量と伸びの実感を重視し、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、日常的に体力を高めることができるようにする。 ・友達同士で振り返ったり学び合ったりする時間を確保し、考えながら運動する楽しさを味わえるようにする。

総 合	・自分自身で課題を設定して調べることができる児童が多い。 ・問題の解決や探究活動に主体的に取り組む態度を更に育て、自己の生き方を考える力を身に付けさせる必要がある。	◎問題解決後、自己と対話したり、それを児童間で伝え合ったりして成長を振り返る活動を大切にし、新たな課題につなげていく。 ・見通しをもって学習し、自己の生き方に結び付けて考えられるようにする。
特 活	・学級会では積極的に自分の意見を出す児童とそうでない児童との差がある。 ・提案理由に沿って意見を出したり、折り合いをつけて話し合ったりすることのできる児童が徐々に増えている。 ・委員会やクラブなどにきちんと取り組む児童が多い。 ・縦割り班活動では、下級生に意識をもって活動をしている児童が多い。	◎学級会ノートを活用して事前に意見を考えさせ、近くの友達と話し合う中で自分の意見を出せるようにする。 ・学級会のめあてを提示し、意識をもって取り組めるようにする。 ・提案理由を常に意識させるために、児童の中から提案理由が意識された発言である時には称賛する。また、児童の意識が低い場合には、担任より意識付けの声をかけをする。 ・委員会、クラブ活動・縦割り班活動を充実させ、6年生のリーダーとしての資質を育てられるように、定期的に振り返りやアドバイスをする。
道 徳	・教材をもとに、自分の考えをまとめることができる。 ・自分の考えをもち、友達と交流することができる。友達の考えを取り入れ、考えを広げようとすることができる。 ・道徳的価値と自分の生活と結び付けることに課題が見られる。	◎B「主として人との関わりに関すること」、及びC「主として集団や社会との関わりに関すること」を重点に指導する。実生活と道徳的価値を結び付けられるようにする。 ・自分の考えを学習者用端末を活用して表現することで、自己の道徳的成長を実感できるようにする。 ・児童が多面的・多角的に考えられるような発問を構成しながら、道徳的価値の理解が深められるようにしていく。
外 国 語	・多くの児童がペア活動とスピーチに積極的に取り組んでいる。 ・書くことに熱心に取り組む児童が多い。 ・アルファベット(小文字)を書くことに課題がある児童がいる。	・個々の児童が発話できる活動を取り入れ、コミュニケーションを取る楽しさを体感できるようにする。 ・スピーチ活動を通して聞き手にとって分かりやすい話し方のスキル(声の大きさ、スピード、ジェスチャーなど)を身に付けることができるようにする。 ・基本的な語彙(月・数字・気持ちetc)とアルファベット(小文字)の定着を図る。